




# 京都北部地域におけるMaaS実証事業

- ・地方都市における生活交通の確保を目的として、地域のあらゆる移動ニーズの集積を行い、アプリ上で公共交通とAIオンデマンド交通を複合した社会システム（MaaS）を創ることで、地域の移動総量を拡大し地域課題の解決を図る。
- ・具体的には、生活エリア内を自由に移動できるサービスと、エリア外の主要な施設を結ぶAIオンデマンド交通に、公共交通を組み合わせることで、マイカーと同等以上の魅力的な交通サービスを構築することで、マイカーが無くても自由におでかけができるまちを目指す。

協議会の 構成員	WILLER株式会社、WILLERS PTE.LTD.、WILLER TRAINS(株)、 京都府、与謝野町		<h3>取組イメージ</h3> <p>エリア内を自由に乗降が可能なリアルタイムオンデマンド</p>  <p>アプリまたは電話で mobiを呼び出す</p>   <p>通勤で駅まで</p> <p>【相乗りが可能】 AIルーティングによって、 複数のお客様からの 配車依頼にも最適なルート で対応。</p>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元の交通課題としては地域交通が低密度であり、かつ目的地へダイレクトに行ける交通が少ない。また公共交通が運行している場所でも、便数が少なく、住民がダイヤに合わせて行動する必要があり利用性が低い。</li> <li>● 人口減少及び新型コロナによる影響での地域公共交通の利用者減少・ドライバー不足が課題として挙げられ、今後の地域公共交通を維持する仕組み作りが求められている。</li> </ul>		
事業概要	期間	2022年2月3日～2022年3月4日	<h3>検証結果</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 配車回数：461回</li> <li>● 乗車人数：553名</li> <li>● 利用人数：77名</li> <li>● 相乗り率：11%</li> <li>● サービス満足度平均4.7（5点満点中）</li> <li>● 外出頻度の向上：63%が「週1回以上外出が増えた」と回答。（利用後アンケートより）</li> </ul> <p>→バス停からの自宅のラストワンマイルでの利用が見られ、利用者の利便性向上につながった。</p>
	エリア	与謝野町野田川エリア	
	MaaSシステム	MaaSアプリ「mobi Community Mobility」を使用	
交通サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エリア内を自由に乗降可能なAIオンデマンド交通の導入</li> <li>● 同アプリ内でのエリア内・エリア外2地点間移動の同時検索が可能</li> <li>● 鉄道や路線バス、「mobi」等の複合経路検索機能の提供</li> <li>● アプリや架電でのAIオンデマンド交通「mobi」の配車予約・決済機能の提供</li> <li>● 鉄道利用でのQRコード決済を導入</li> </ul>		
交通以外のサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エリア内の店舗情報の掲載</li> <li>● エリア内店舗の乗降地設定</li> </ul>		
検証内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 与謝野町において、新たなモビリティサービスによる地域の交通課題解決に向けたモデル構築を推進することを目的とする。</li> </ul>		<h3>今後の方向性</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活利用中心から、ワーケーション、旅行者の交通の不便さを解消（交流を生みだすまちへ）</li> <li>● 複数の交通モードと、商業、観光、福祉、医療、とのデータ連携による一体的なサービス提供</li> <li>● 生活交通と地域電力のエネルギーマネジメントによる低炭素社会の実現</li> <li>● 京都丹後鉄道沿線地域への横展開及び、日本全国での展開（複数地域共通利用）</li> <li>● ASEAN諸国の交通課題（渋滞・安全）を解決するサービスの展開</li> </ul>